「日本風景街道」は、景観を生かした地域活性化や観光立国のきっかけにと2006年に登録開始した道路空間づくりの取り組み。地域住民や企業、行政が連携して景観形成などに当たる。導入の先駆者は北海道だ。アメリカのシーニックバイウェイを参考に、北海道で制度検討が始まって10年。今年3月現在全国130ルートが登録。北海道には11ルートあり、（8月現在）新たな候補も3ルートある。風景街道運動の先駆けの誇りから、北海道では今も「シーニックバイウェイ」と呼ぶ。どうしたらみんなが連携できるか。「ひろがる・つながる」を目指す、北海道の心意気と取り組みを紹介する。

日本風景街道

北海道のシーニックバイウェイ

札幌でフォーラム開催

制度検討開始10年の昨年12月、シーニックバイウェイ北海道推進協議会主催の「シーニックバイウェイ北海道～深化～全道フォーラム2012」が札幌市で開催された。

ルートの見どころの美しいパネル写真、映像、特産品、美味しいもの、特徴的な活動、体験メニューなどを展示したり発表も。パンフレットやグッズ配布、名産のお菓子の試食など楽しさと活気溢れる交流と情報交換が行われた。

トーク・セッションでは、活動で指導的役割を果たした3氏が10年を振り返り、成果やエピソード、今後の夢など熱い思いを語った。

石田東生筑波大学システム情報系社会工学域教授は「シーニックで人生が豊かになったと感じる。守りたいのはシーニックのシンボル、風景、景色だ。景色は人々の暮らし、元気、気持ち、町の活発さ、産業、森や水などで構成される。美しく元気な田舎の本当の意味を守ろう。公共事業や道路は無駄、などの思い込みや固定観念にとらわれず、ビジネスモデルを道外に移出するなどチャレンジを忘れてはいけない。若い仲間やビジネス、各ルートのブランドを創ろう。人が往来し、気持ちや情報が通い、金や物も行き来するのが道。それを具体化する技と体制を行政、学校、企業、地域が一緒になって次の10年で創ってほしい」と総括した。

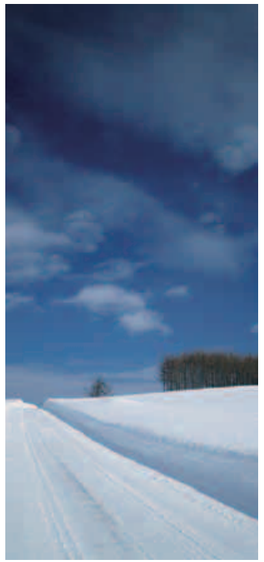
和泉晶裕氏

石田東生氏

原文宏氏

トークセッション

各ルートが自慢の活動を披露


冬の北海道も格別な趣が

和泉局長は「スタートから地域が主体、行政は黒子と考えた。人と会い、話し、食べたり飲んで理解し合う機会を守り、楽しく続けていきたい。変化への恐れ、安住感、形骸化、前例主義はじめ批判や排除、縄張りなどは壊したい。原点に返り美しい道路景観や安全性を地域と一緒にマネジメントするプログラムや新しい人材を創ろう。次の10年も話して飲んで食べ、知恵を絞って進めよう」と力説。

現場に詳しい原文宏一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター業務執行理事は「統一したマニュアルはない。地域の提案や要望にノーと言わず、トライしてから話し合う姿勢で、地域ごとの様々な課題を一つずつ一緒にやってきた。その重みと歴史を大切に中間支援としての機能と人を守っていく。長く続くには単純にボランティアでは難しく、ボランティア中心的な活動体制を見直したい。分野の垣根を除く有機的な結びつきが重要だ。若者が参加しやすく継承しやすい環境を創りたい。最終的には交流人口や雇用を増やす。シーニックで食べられるような環境が必要。一生続ける覚悟でとり組む」と決意を述べた。

ロゴマークはコンノジュンコさんが手がけ、日本の象徴富士山をモチーフに、歴史や文化が道路を介して未来へ続いていくことを表現した。

ベストプロジェクトを表彰

11ルートを指定

フォーラムでは次世代に引き継ぐ取り組みを評価した「ベストシーニックバイウェイズ・プロジェクト2011」を発表。最優秀賞「学校シーニックバイウェイ（南十勝夢街道）」▽優秀賞「地域情報受発信プロジェクト（萌える天北オロロンルート）」▽審査員特別賞「雪のワークショップ（大雪・富良野ルート）」「礼文島リボンプロジェクト（宗谷シーニックバイウェイ）」「はこだて花かいどう（函館・大沼・噴火湾ルート）」「シーニックバイウェイスタンプラリーin南区2011（札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート）」を選んだ。

最優秀賞の南十勝夢街道の三浦祥嗣代表は「学校シーニックバイウェイは、授業の中で子供たちが春夏秋冬を通じ自分の町の良さを他地域の人にどう紹介し、どう説明するか考え実行して、頭に刻まれるよう願う取り組み。私たちの後を引き継いでくれたらと期待し、学校との協力で地道に行っている」と、受賞の喜びを述べた。

北海道の風景街道はいかにも美しい

最優秀賞に南十勝夢街道

優秀賞の萌える天北オロロンルートの西大志代表は「暮らしの中にある情報を発信・受信しながら当ルートらしいあり方を模索し、心こもる手作りマップで地域を表現した。ルートの大勢の人たちの協力で作り上げ、思いが詰まったマップだ」と話した。

石田東生審査委員が「最優秀賞の学校シーニックバイウェイは、次世代に引き継ぐ輪を広げる取り組みを評価したが、他のどの取り組みにも思いがあふれ評価は紙一重。10年目以降も共に頑張ろう」とエールを送った。

「連携による地域力の強化」がテーマの活動発表で紹介された最優秀賞、優秀賞の活動概要は次の通り。

【南十勝夢街道】

地域の学校は、ルート団体や学校運営者、児童・家庭にも良い活動の場だ。運動の思いを伝えて子供たちの関心を引き出し、子供たち自身が地域のお勧め情報を話し合い、マップ化して地域をPRし案内する機会を作り、自慢や誇りをもつ。道央圏の親子を対象に児童のお勧めポイントを盛り込んだ企画「親子で行く南十勝のクリスマス」という1泊のツアーを実施。参加者の大半がアンケートに「満足」と回答した。南十勝全体のマップに子供たちのお勧めを入れた「お宝マップ」を制作し、今後も子供たちの提案に耳を傾け継続していく。

【萌える天北オロロンルート】

「留萌ってどこ」と聞かれたり、地元でも自分の町や隣町をあまり知らない人が多かったので、8市町村の情報をつなぎ、自分たちの力で発信しようと始めた。フリーペーパー「るもいｆａｎ」、ガイドブック、手描きオロロンマップ、Ｗｅｂサイト、コミュニティ放送局「ＦＭもえる」などで暮らしの中の情報を発信、継続し評価を得た。オロロンマップには大勢の思いが詰まり一枚一枚が繋がっている。観光連盟とも連携してパワーアップさせたい。

民間企業と連携強化…4社と包括連携協定調印式

民間企業などとのコラボレーションを強め、シーニックバイウェイの活動を強固にしようと、企業との「包括連携協定調印式」も行われた。

高向巌推進協議会会長は「民間団体や企業のノウハウを活かす試みを一層推進すべく協定を結ぶ。定年退職者の増加、北海道新幹線函館開業でドライブ旅行者が一気に増える。協定により私たちの努力が大きく花開くだろう」と調印の趣旨を説明した。

調印したのは、トヨタレンタリース札幌／グランビスタホテル&リゾート札幌グランドホテル／北海道コカ・コーラボトリング／Follow Me Japan Pte.Ltd. の4社。

トヨタレンタリース札幌は、ハイブリッド車を多く配備し環境に配慮した取り組みを実施。「アクア」をレンタルしたユーザーを対象に、水に関するクイズを解きながらルートを巡り、地域の魅力を発見するコラボレーション企画などに取り組んできた。

札幌グランドホテルは、歴史と伝統があり早くから地域食材を使った道産料理を提供。シーニックバイウェイ各ルートの食材を使った朝食メニューの企画や、ホテル内でシーニックバイウェイ活動や美しいルートの風景PRなども続けている。

北海道コカ・コーラボトリングは、市町村との防災協定やモニタ付き自動販売機を活用した災害情報提供など社会貢献を展開。自販機を活用しシーニックバイウェイの活動PR、スタンプラリーへの協賛、プロジェクトのPR支援などをしている。

シンガポールなどに拠点をおくFollow Me Japanは、日本へのツアーを専門に北海道へ外国人観光客を誘致した先駆者。ルートをめぐるドライブ企画や、シンガポール国内での旅行商談フェアで、シーニックバイウェイ北海道のPRにも積極的だ。